

講義名	中国語中級 A			授業形態	
担当教員	森 宏子	開講期・曜日・時限	前期 月曜日 2 時限		
		単位数	2	履修開始年次	2 年生
				ナンバリング・コード	CH1205
主題と概要					
すでに学んだ中国語の基礎を復習しながら、さらに新しいものを積み上げ、中国語の基本的な文法知識を一通りすべて学びます。中国語の文法は、英語のように多くはありませんが、それを実用に活かせるかどうかが問題です。中国語学習者によくありがちなタイプとして、発音を軽視し、リスニングはまったくお手上げという人がいます。「聞く、話す、書く、読む」すべてにおいて、中級レベルに達しなければ意味がありません。自分に足りない部分を知り、弱いところは、初心に戻って学び直す気持ちが必要です。					
到達目標					
基本的な中国語の読み書きができるようになる 中国語で日常のやりとりができるようになる 中国語検定試験のレベルを目安とすると、4級～3級レベルの中国語を学習します。検定4級～3級にチャレンジできる力をつけます					
提出課題					
授業でやり残したドリル					
課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法					
中間試験は返却した上で講評します。					
評価の基準					
次の点を総合的に判断します： 平常点（出席状況、受講態度） 20％ 中間試験と期末試験 80％					
履修にあたっての注意・助言他					
ややレベルの高い中国語クラスです。対象学生は「ブラッシュアップ中国語」を終えた人、GSP（グローバル・スタディーズ・プログラム）生などを想定しています。初心者向けの授業ではありません。 留学生の人は、日本語で中国語を学ぶことを理解した上で、履修して下さい。日本語への翻訳練習も多くなります。					
教科書					
.教材はプリントを配布します。					
参考図書					
.必要に応じて案内します。					

その他	
授業計画	
1. 授業案内、ウォーミングアップ 予習：これまで使用した中国語テキストなどを見直しておく（2時間）／復習：教材プリントのふり返り、知らない文法・単語を自習する（2時間）	
2. 会話：祝你生日快乐？ 予習：教材プリントに目を通す。会話文の音声を聞き、音読する（2時間）／復習：会話文の音読、残りのドリル（2時間）	
3. 講読：买衣服 予習：教材プリントに目を通す。講読文の音声を聞き、音読する（2時間）／復習：講読文の音読（できれば暗唱）、残りのドリル（2時間）	
4. 会話：电影快开演吧？ 予習：教材プリントに目を通す。会話文の音声を聞き、音読する（2時間）／復習：会話文の音読、残りのドリル（2時間）	
5. 講読：做寒假作业 予習：教材プリントに目を通す。講読文の音声を聞き、音読する（2時間）／復習：講読文の音読（できれば暗唱）、残りのドリル（2時間）	
6. 会話：咱们快上去吧！ 予習：教材プリントに目を通す。会話文の音声を聞き、音読する（2時間）／復習：会話文の音読、残りのドリル（2時間）	
7. 講読：妈妈的邮件 予習：教材プリントに目を通す。講読文の音声を聞き、音読する（2時間）／復習：講読文の音読（できれば暗唱）、残りのドリル（2時間）	
8. 会話：欢迎你来上海！ 予習：教材プリントに目を通す。会話文の音声を聞き、音読する（2時間）／復習：会話文の音読、残りのドリル（2時間）	
9. 講読：钱行 予習：教材プリントに目を通す。講読文の音声を聞き、音読する（2時間）／復習：講読文の音読（できれば暗唱）、残りのドリル（2時間）	
10. 中間試験 予習：試験勉強（4時間）	
11. 中国に行こう 予習：教材プリントに目を通す。会話文の音声を聞き、音読する（2時間）／復習：会話文の音読、残りのドリル（2時間）	
12. ウーロン茶を飲もう 予習：教材プリントに目を通す。会話文の音声を聞き、音読する（2時間）／復習：会話文の音読、残りのドリル（2時間）	
13. 友達をつくろう 予習：教材プリントに目を通す。会話文の音声を聞き、音読する（2時間）／復習：会話文の音読、残りのドリル（2時間）	
14. 長城に登ろう 予習：教材プリントに目を通す。会話文の音声を聞き、音読する（2時間）／復習：会話文の音読、残りのドリル（2時間）	
15. 漢字を覚えよう 予習：教材プリントに目を通す。会話文の音声を聞き、音読する（2時間）／復習：会話文の音読、残りのドリル（2時間）	
教材はプリントを配布しますが、「さあ、中国語を学ぼう！」（白水社）の12課以降を使用する予定です。中間試験以降は別の教材を用意します	
授業形態（アクティブ・ラーニング）	
☐ ア：PBL（課題解決型学習）	☐ イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
☐ ウ：ディスカッション、ディベート	☐ エ：グループワーク
☐ オ：プレゼンテーション	☐ カ：実習、フィールドワーク
☐ キ：その他（A・L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	
外国語を用いて「人と円滑なコミュニケーションをとることができる」資質・能力を育み、商学部生に求められる「各業界の動向や問題点を理解するための基礎知識」、経済学部生に求められる「人間、社会に関するこれまでの学問的成果の基礎」、人間社会学部生に求められる「日常生活と文化といった現実社会の様々なテーマ」に習熟し「コミュニケーション能力」の育成を目指します。	
双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述	
実務経験の有無及び活用	
備考	